

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	クールダウンのルール化、特性を生かした居場所づくり、 他者理解と受容的な学級風土の醸成
【学校、学年】	小学校 【 2 】年
【状況、様子 等】	<p>○前年度の児童Hの様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衝動的に離席して机の下に潜ったり、注意されると不適切な行動が見られたりするなど、感情のコントロールに課題があった。 ・じっとしているのが苦手な特性や書字への抵抗感から、学習参加が困難で、自尊感情も低下傾向にあった。 <p>○前年度の学級の様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児の多動や唐突な発言に対し、周囲の児童が「うるさいよ」「やめて」と反応することがあった。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できるルールの共有と自己決定の尊重：離席を禁止するのではなく、「場所・時間・何をするか」を教師に報告すれば教室を出てクールダウンできるルールについて本児と合意形成を図った。（合理的配慮・支援） ・書字負担を減らす（なぞり書き等）配慮を行い、「できる」経験を増やした。（合理的配慮・支援） ・特性を「強み」に変える役割と居場所づくり：「注目されたい」「話すのが好き」という特性を肯定的に捉え、「お笑い係」などの係活動を設定し、クラス内での「価値ある役割」を経験できるようにした。（学級経営・支援） ・「違い」を認め合い、「互いに待つ」風土の醸成：学級全体に対し、「落ち着く方法は人それぞれ違う」ことを伝え、本児の離席を特別視しない雰囲気をつくった。（学級経営・支援体制） ・トラブル時は無理に指導せず、本児が落ち着くのを周囲も「待つ」姿勢を共有し、失敗してもやり直せる安心感をつくった。（学級経営・支援体制）
【結果、変容 等】	<p>○児童Hの変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イライラした際は、自分から「落ち着いてきます」と報告してクールダウンし、気持ちを切り替えて授業に戻れるようになった。 ・係活動等で認められる経験を重ねたことで、トラブル後に自分から「ごめんね」と謝罪できるようになった。 <p>○学級の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の児童が本児の特性を理解し、離席や感情の起伏に対して、温かく見守る（待つ）ようになった。 ・「お笑い係」などを通じて一緒に楽しむ関係性が生まれた。